

楽しいことは、これで終わりじゃない。

秋も冬も春も夏も、僕らが守った未来はずっと続いていく。

そしてその日々の中で、きつと僕らはずつと共に在るのだろう。

「……マッシュ」

「はい」

「これからもよろしくね」

「……はい、先輩」

お互いの存在を確かめるように、すり、と頬を寄せ合って。

巡る季節に思いを馳せながら、僕らは我が家へと歩いていくのだった。

これは、そんな物語。

結ばれた僕と彼女の、何でもない日々の話。